

母校を
たずねる

岩手高 ⑦

「伝説の秀才」と学び、遊んだ

湯守ホテル大観会長 佐藤義正さん —1950年度まで在学



盛岡市湯守のホテル大観で

佐藤義正さん(84)―1950年度まで在学―は盛岡市の奥座敷つなぎ温泉にある「湯守ホテル大観」の会長です。岩手中・岩手高時代に、かがえのない友人に出会いました。「自由な雰囲気の中、自分の才能を思いきり伸ばす校風がよかった」と振り返ります。【藤井朋子】

昨年、ノーベル医学生理学賞を本原佑さんが受賞された報道を見て、岩手中高時代の友人を思い出しました。本原さんが通った山口県立宇部高の同級生たちが、秀才ぶりを話していたでしょう。「たむちんとそっくりだ」。田村壽という伝説の秀才がいたんです。

繫国民学校(現盛岡市立繫小学校)1年生の時に太平洋戦争が始まりました。終戦後、すぐに連合軍総司令部(GHQ)の影響で学制改革があり、6・3・3制に変わりました。旧制中学校がなくなり、僕は本屋で参考書を買った

り、試験でヤマを張ったりしたけれど、彼は教科書を読むだけで十分でした。要領がよく、すべて頭に入っていたから、試験前日でも野球をして遊んでいました。助言を求め

ると、いつも「僕もよく分からないんだけど」と謙遜するものの、「こうじゃないかなあ」と話す箇所は必ず試験に出ました。達筆で、バスケットボールや絵も上手だけと謙

さとう・よしまさ 1934年生まれ。早稲田大第一政経学部卒業後、ホテル大観の前身・佐藤旅館に入社。72年に代表取締役社長。訪日外国人数を促進するため、政府が2003年に開始したビジット・ジャパン・キャンペーンに携わり、観光庁設立にも尽力した。一般社団法人国際観光旅館連盟会長、同庁観光産業政策検討会委員など歴任。94年藍綬褒章、14年旭日中綬章を受章。15年に県勢功労者表彰。

虚でした。

盛岡市内の眼科の息子で、僕の下宿先はずいぶん近かった。でも通学は一緒でした。学校で僕の背中にほんのりと紙を丸めて投げる。紙を広げると、「今日国劇(映画館の名称)に寄ろう」と。ジョン・ウェインの西部劇をいつも見てました。でも先生に見つかり、二人そろって尻をたたかれ、あれは痛かったなあ。

同級生も僕も「田村が残るから」という理由で、岩手高に進学したけれど早稲田大に憧れがありました。編入試験があることを知り、同大高

岩手高の同窓会「石桜同窓会」は、巨大な岩石から太い幹が伸びる石割樹のような力強い組織だ。

ひとたび事が起きると助け合いの精神を発揮する。2011年の東日本大震災では、沿岸在住の卒業生約2500人のうち、十数人が犠牲になった。震災間もない2カ月後、当時の同窓会長、副会長、役員は被災地を訪ね歩き激励し、ホームページに消息を掲載していった。



創立90周年協賛事業の一環として、16年に創立者の「三田義正翁」の胸像を寄贈した。また「不撓不屈」の石桜精神の発揚として「石割樹」に向かって校歌を歌う」を実施。約80人が同年10月早朝、木を見ながら土井晩翠作詞、山田耕柞作曲の校歌を歌い上げた。

村井紀之同窓会長(72)「写真」は「若い人の同窓会離れは深刻だが、絆のすばらしさを伝え、結果としていきたい」と話している。

強固な結束「石桜同窓会」

(毎週金曜日)掲載